



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

1月：睦月（むつき）

新年あけましておめでとうございます。本年も皆様にわかりやすい情報を発信して参りたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。1月は寒の入りで5日ごろは小寒、21日頃が大寒です。2月の節分前までが寒中です。寒さに負けずに乗り切っていきましょう！

～インフルエンザについて～

東京都感染症情報センターによるとインフルエンザは11月にピークアウトして12月は減少傾向でした（下の図赤の線）。学級閉鎖や入院も減少傾向です（図4）。昨シーズンはインフルエンザA型の亜型が流行り、1シーズンに2度A型にかかるという現象が見られました。今シーズンは皆さん1度で済んでいるようです。例年ですとインフルエンザA型が減ってくるとB型が出てくることが多いので、これからB型が出てくるかもしれません。

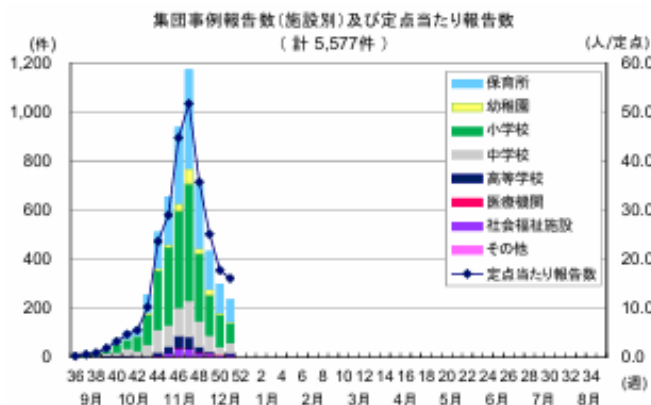
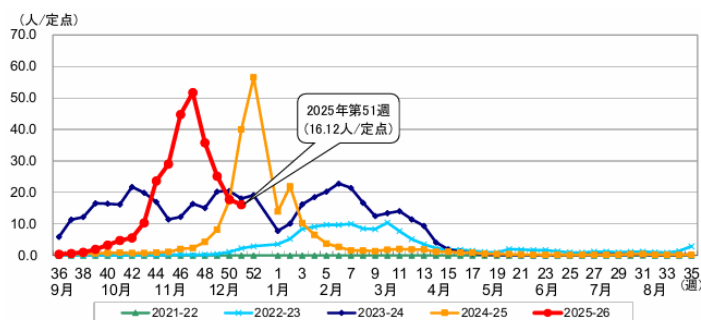


図4. インフルエンザ様疾患の集団発生報告数

～溶連菌感染症について～

季節性なくダラダラと発生しているのが溶連菌です。溶連菌（溶血性連鎖球菌）は、いわゆる風邪（ほとんどがウイルス性）とは異なり、細菌による感染症です。風邪であれば自然にウイルスが消えていきますが、溶連菌は抗生物質治療をしないと除菌出来ません（症状が改善しても保菌した状態が続く）。治療には7～10日間の抗生物質内服を行います。溶連菌は無症状で保菌している事が多く（10%くらいと言われています）、一度罹患しても繰り返し罹ってしまうことがあります。溶連菌感染症には数種類の合併症があります。感染後10日後前後に起こる合併症は、急性腎炎で血尿や浮腫みが出ます。頻度は多くありませんが、他にもリウマチ熱や、IgA 血管炎などがあります。リウマチ熱では心臓弁膜症を起こすことがあり、生涯影響がでることもあります。

～感染性胃腸炎について～

冬と言えば胃腸炎です。食欲低下、嘔吐、下痢などの症状が急に始まります。特に0歳未満の乳児、体重の小さなお子様は胃腸炎から脱水症になりやすいので注意しましょう。

表：12月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザ A 型	257
2	溶連菌（ようれんきん）	97
3	胃腸炎（ノロウイルス含む）	58
4	新型コロナウイルス	3
4	RS ウイルス	3
6	水ぼうそう（水痘）	1
6	インフルエンザ B 型	1
6	おたふくかぜ（ムンプス）	1
6	とびひ（伝染性膿痂疹）	1
6	咽頭腺ウイルス	1

あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます



～あんずからのお願い～

★空き状況は Web で

ホームページから確認出来ます。ご予約は前日または当日必ずお電話で（042-513-4158）お願い致します。

📍 空き状況はこちらから



★キャンセルをされる場合

留守番電話でも構いませんので当日 8:30 までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★ご予約の際の注意事項

診察を受けた病名によって、お部屋割りをしています。なるべく同じ病名（感染症）のお子様が同じお部屋にすることで、子ども同士の伝染を防ぎます。また、感染症の接触歴、流行状況等を聞きしております。ご協力をお願い致します。

★保険資格確認について

入室後、必要に応じて医師が診察をします。資格確認書又は健康保険証をお持ちください。どちらもお持ちでない場合、マイナ保険証の場合はスマホでマイナポータルのページを確認させていただきます。

～病児保育室あんず求人のお知らせ～

引き続き午前パートの保育士さんを探しています。詳細はホームページまたは求人サイトをご覧ください。

